

新潟県立吉田病院附属看護専門学校

第56回 卒業証書授与式

3月4日、第56回 卒業証書授与式が行われました。来賓や保護者をお迎えし、穏やかで温かい雰囲気の中、式を挙行することができました。

担任より名前を呼ばれ、校長より一人ひとり卒業証書を受け取りました。

その表情には、卒業の喜びと期待、専門職業人としての決意が感じられました。



卒業生の答辞には、多くの学びを与えてくださった患者様・療養者様、励まし合ったクラスメイト、学校生活を支え応援してくれた家族、ご指導いただいた講師の先生方や実習施設関係者の皆様への感謝の思いがこめられていました。



支え合ったクラスメイトと、笑顔で卒業を喜び合いました。

卒業生の皆様のご活躍を、職員一同祈念しています。



※次頁から校長式辞全文を掲載しております。

令和7年3月

式 辞

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。ご父兄の方々には心からお祝い申し上げます。新型コロナウイルス感染症、インフルエンザなどで医療の現場は未だに行動制限はありますが、こうして講堂で卒業式を挙げられたこと、来賓の方々をお迎えできたこと、大変嬉しく思います。

吉田看護学校での授業、実習はいかがだったでしょうか。マスクで表情がわかりにくく、多くの困難もあったと思います。入学式の時、私は皆さんにコミュニケーション能力の大切さをお話しました。患者さん、指導してくれた職員の皆さん、同僚とコミュニケーションは取れましたか。これからも少しずつ身につけてください。

一年生の授業では「思いやり」の大切さをお話しました。「己の欲せざるところ、人に施すことなかれ」、「自分がしてほしくないことは人にはしてはいけません」論語の中で孔子が最も大切にされた教えです。医療の現場でも最も大切だと思います。

一万円札の顔となった渡辺栄一さん、大谷翔平選手を育てた栗山英樹元日本ハムファイターズ監督も、論語を自分の支えとしていたそうです。

今日はもう一つ論語の中から紹介します。

「憤せずんば啓せず、悱せずんば癸せず」「わかりたくてうずうずしているので無ければ教えてやろうとは思わない」孔子の教育論です。「自癸性」の大切さを示しています。自己啓癸の啓癸もここから来ています。これから臨床の現場に出て行く皆さんは是非、「憤せずんば啓せず」を思い出してください。今までには学校の先生方が丁寧に指導してくれたと思いますが、これからは教えてもらいたいと言う意欲が無いと教えてもらえ無いかもしれません。ワクワクした気持ちで四月から仕事に励んでください。「思いやり」、を持って「憤せずんば啓せず」を思い出して頑張ってください。吉田看護学校は後一年となりました。しかし困ったことがあればいつでも相談してください。私はずっとここに居ます。

以上、みなさんの希望に満ちた明るい未来を心から願いながら、式辞とさせていただきます。

令和七年三月四日

新潟県立吉田病院 附属看護専門学校

校長 中村厚夫